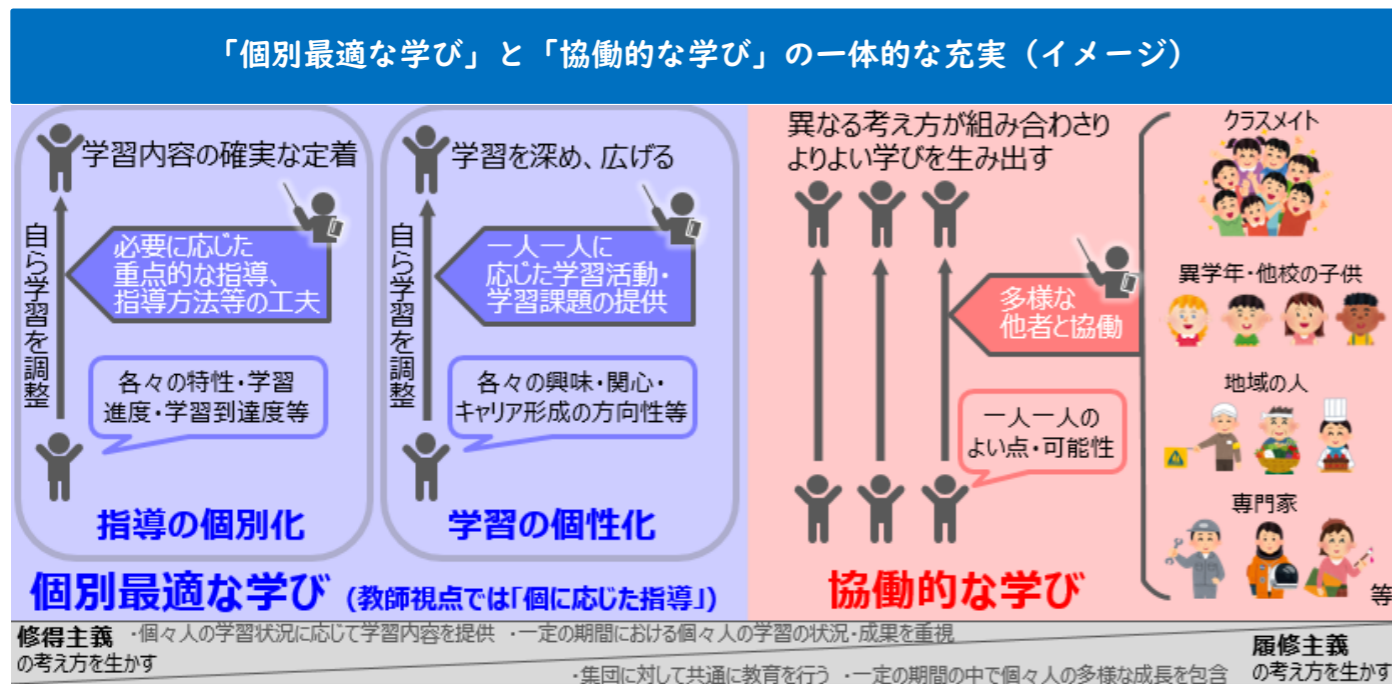


資料①

【「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実】

「個別最適な学び」は学習者の視点から「指導の個別化」「学習の個性化」の2つの側面に整理されており、児童生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるよう指導することが重要です。

教師の視点から整理した概念が「個に応じた指導」です。授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していくことが大切です。



「指導の個別化」

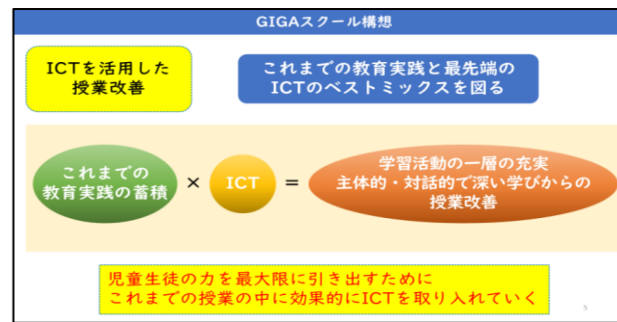
- 少人数・習熟度別指導
(例)より少人数で、一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じた指導
- 授業の効率化
(例)提示資料等の共有・保存、ICTによる学習ドリル活用、配布資料（紙媒体）の軽減など
→ 効率化された時間で、より支援の必要な子供や協働的な学びの時間に利用する。
- 学習履歴を元に、一人一人の課題と学習方針を決める。

「学習の個性化」

- 疑問に思ったらすぐに調べる。質問する。
(例)先生にたずねる、教科書・資料・図書・インターネットで調べる など
- 課題に対して自分で学習方法を決める。自分の方法でまとめて話し合う。
(例)社会科や総合的な学習の時間でインターネット・電子書籍・本・雑誌・現地インタビュー・メールなどを使用し、自分で調べる。プレゼンテーション・新聞・ポスター・動画・イラスト・劇 など発表の仕方やまとめ方を自分で選ぶ。

「協働的な学び」

- 探究的な学習や体験学習などで、地域の方々や専門家と協働する。
(例)生活科や総合的な学習の時間で、地域の方々や専門家との対話や交流を行う。
- 共通の課題に取り組んで、教え合い、学び合う。
(例)各教科等におけるペア学習、グループ学習など
- 個別に調べたことを共有し、議論・フィードバックし合うことで、考えを広げ、深める。
(例)個々に調べたことを発表し、感想交流・質疑応答・情報交換を行う。知識の共有、新しい視点の獲得、問いを見だし、さらに調べ、思考することで学びを深める。



参考：GIGAスクール構想の実現に向けて（文部科学省）

<文部科学省>

【「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実】

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseioun/mext_01317.html

【GIGAスクール構想の実現について】

https://www.mext.go.jp/a_menu/other/index_00001.htm

GIGAスクール構想、ICT環境整備・運用、ICT活用に関するリンクがあるサイトです。

【「StuDX Style」について】

<https://www.mext.go.jp/studxstyle/>

「すぐにでも」「どの教科でも」「誰でも」活かせる1人1台端末の活用方法に関する優良事例や本格始動に向けた対応事例などの情報発信・共有のためのサイトです。

<佐賀県>

○ICT活用教育「プロジェクトE」推進室HP（佐賀県教育庁学校教育課）

<https://www.pref.saga.lg.jp/kyouiku/list01913.html>

ICT活用教育、学びのサガンアップデート、県内実践事例紹介されています。

○佐賀県教育センター

<https://www.saga-ed.jp/>

授業に役立つコンテンツとして1人1台端末の活用例などが紹介されています。



【コラム】全ての子供が学びやすい授業づくり

特別支援学級や通級による指導では、個別の指導計画に基づき、一人一人の障害の特性や状態に応じた指導や支援が行われています。通常の学級においても特別な配慮を必要とする子供がいる場合があります。特別支援教育の視点を通常の学級の授業づくりに活かすことは、特別な配慮を必要とする子供たちにとっては「なくては困るもの」、他の子供たちにとっては「あって便利なもの」となります。このことは、全ての子供たちが学びやすい授業、学習活動に参加している実感や授業内容を理解できた達成感をもつことができる授業としての効果が期待されます。多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」、子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」を一体的に充実していく手立てとして、これまで培ってきた特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりに取り組んでみましょう。



- ・教室の教材や掲示物の配置を意図的に行う。
- ・授業の始めに全体的な見通しを提示する。
- ・言葉だけでなく、視覚的に提示する。
- ・具体的に短い言葉で話す。
- ・発表や話し合いの仕方等の手順を示す。
- ・興味関心、習熟度等に合わせて課題を準備する。
- など